おんがく広場

♪ Music Square ♫

第284号

令和7年(2025)4月1日(火)

Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊

発行･クッキー会　発行責任者･加藤良一

連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

洋楽文化史研究会 創立25周年記念演奏会

洋楽文化史研究会は創立25周年を迎え記念演奏会を8月2日、旧東京音楽学校奏楽堂で開催します。

この演奏会は、戦時期日本の「一億総蹶起」の意識発揚を目的とした楽曲と、人びとのホンネとタテマエの交錯が見られるレコード発売枚数ランキング(『音楽文化』1944年11月号所収の「この一年の音盤」)の楽曲と「兵隊ソング」を再演することにより、戦時期の人びとの意識と、社会に息づいていた音楽の主張を見据えます。敗戦80年の今、「戦争の時代」の歴史を音楽から再考する企画です。

演奏会案内チラシより

同研究会は、日本の「洋楽の歴史」のうち、1910～40年代(敗戦後)までの洋楽(ジャンルは問わず周辺領域を含む)についての考察を対象とし、研究報告や書評による例会、社会と音楽文化についてのシンポジウムや演奏会の開催、論文集の刊行に取組みながら、日本の近現代史に音楽文化の歩みを対置し、考察を重ねています。会長:戸ノ下達也、代表幹事:上田誠二、顧問:長木誠司の各氏。

2025年度は、「**敗戦80年**」を統一テーマに、例会や演奏会、書籍刊行、資料復刻を予定しています。

同研究会については下記公式サイトをご覧ください。
https://yougakubunkashi.gozaru.jp/

見よ東海の空明けて
― 敗戦80年に問う戦時期の音楽 ―

プログラムは、第1部「**戦時期の象徴**」は、軍歌を中心にどのような歌が歌われていたか、第2部ではそんな戦時下にあって「**日常に寄り添う音楽**」として歌われた歌を紹介します。今回は演奏会予告です。開演時間その他は追って公開されます。

指揮: 栗山文昭
合唱: コーロ・カロス(混声合唱)
テノール: 五郎部俊朗
ピアノ: 寺嶋陸也、相川陽子、山下暁子、鈴木絢子
浪曲師: 三門 柳、曲師: 広沢美舟

日本における「軍歌」とは、音楽形式は唱歌と同じで、歌詞には新体詩を採り入れ、主に2/4拍子や長音階、行進曲風の軽快なものが多い。一般に「軍歌」とは軍楽や一部の唱歌、国民歌謡、軍国歌謡などの戦時歌謡の通称といわれています。「軍歌」のもっとも古いものは、『古事記』や『日本書紀』に出てくる「久米歌」や『万葉集』(防人の歌)が上げられます。

「軍歌」は軍国主義の象徴的存在でもあり、とくに戦前戦中に若い時代を過ごした人にとっては、単に音楽として聴くことに反発を覚える方もいることでしょう。ところが、音楽史としてこの分野の研究は意外と進んでいないようです。敗戦80年を迎えた今、戦争とその時代に生きた人びとの生きざまについて想いをはせる機会となることを願います。

テノール歌手の沖縄県立芸術大学教授**五郎部俊朗**さんはCD＜**歌は美しかった**＞シリーズで日本の歌曲なかでも懐メロといわれる曲をたくさん歌って好評を博している方です。2019年に行われた洋楽文化史研究会第100回記念例会でも演奏されました。そのときの模様は以下にレビューがあります。

https://rkato.sakura.ne.jp/music/m166_nagasaki_no_kane_goroube_toshirou.html

編集委員：江川善裕、大島誠一郎、加藤良一(責任者)、新祖章、野口享治、星野英明、南めぐみ

バックナンバーは**こちら**でご覧ください